

# ぱれっと

2009  
2月  
No.114

## ■ 目次 ■

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| すぽっとらいと | <政治>の現場で社会意識を高める<br>特定非営利活動法人ドットジェイピー |
| アラカルト   | 「すぽっとらいと」登場団体に学ぶ！<br>市民活動をはじめるポイントは？  |
| サポセン日記  | いろいろ学べた！中学生職場体験活動                     |
| イベント紹介  | 2月のイベント紹介                             |



### この階段の上には何がある？

「ここから先には上がりません。」と、サポセンスタッフに止められた方、「ごめんなさい…」 2階はスタッフ事務局となっております。サポセンの運営についてのミーティングを行ったり、講座やイベントの企画、報告書作成など事務室として使用しています。この階段を上がっても、貸室や交流サロンにはいけませんのでご了承ください。

# すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

## 〈政治〉の現場で社会意識を高める 特定非営利活動法人 ドットジェイピー

(特活)ドットジェイピーは、学生に政治現場の体験をさせる議員インターンシップ事業を展開しています。そんなドットジェイピーの掲げるミッションは、「次代の担い手であるジャパンプロデューサー(※)を世に送り出すこと」。11年前に関西で始められたドットジェイピーの活動はその後、全国に広がるようになりました。2006年に東北支部が設立されてから、これまでの活動を、東北支部代表の村山享平さんに伺いました。

※ジャパンプロデューサーとは、ドットジェイピーが定義している“自らが人生の主役となって、自らを変え、世の中を変えていける人材”のこと。



▲ 東北支部代表の村山享平さん

### ●学生が立ち上げ、 学生が運営する活動のはじまり

そもそも、ドットジェイピーが最初に設立されたのは11年前の1998年。現理事長の佐藤大吾さんが大阪大学の学生だった時、学生サークルとして始まりました。「最初は関西圏で1回だけやってみよう」ということで、議員事務所で街頭演説や地域の挨拶回りなどを手伝う議員インターンシップを行ったそうです。ところが、参加した学生や議員から「ぜひ、続けてやろうじゃないか」という声が上がったのです。

その後、全国紙で活動が紹介されたのをきっかけに、関東圏の国会議員事務所での受け入れも始まりました。こうして、議員インターンシップの試みは、「自分のところでもやりたい」という学生の声によって、九州から北海道に広がっていきました。このような活動が始まった背景には、若年投票率の低下、若年層の政治への無関心があったようです。2006年、仙台でも議員インターンシップができないかということで、東北大学の学生が中心になってドットジェイピー東北支部を立ち上げました。



▲ 議員インターンシップ説明会の様子

### ●継続的に運営するための秘訣

ドットジェイピー各支部の運営は全て学生が行っています。そのため、「引継ぎ」は特に重要で次のような仕組みで行っているようです。

議員インターンシップの期間は、2、3月と8、9月。これに合わせて、スタッフも4月～9月までと、10月～3月までの半年を1期として活動しています。基本的には、運営スタッフはだいたい10名から20名で、任期は1期で終了です。しかし、その後も継続的に関わっているメンバーも多く、その内約半数が残るそうです。このメンバーが次期の主要スタッフとして、新スタッフの教育や業務を行っています。加えて新人向けには、2日間の研修も実施しています。2期1年間で携わるスタッフが各期半数いるのでノウハウが上手く引き継がれているのです。

全国の中でも東北支部は特に定着率が良く、東北支部は現在6期目に入っていますが、5期目のスタッフが3人、4期目のスタッフが3人、3期目のスタッフが7人いるそうです。

一方で全国組織のため支部の仕事だけではなく、組織全体の仕事もあります。例えば、受け入れ議員を集める議員担当、参加学生を集める学生集客担当、広報などのマスコミ担当、イベント企画担当などです。ノウハウを提供し合ったり一元的に管理することで、各支部ではバラつきの出してしまう受入れ議員数やインターン参加学生数などを一定数確保しています。さらに、毎週グループごとに週報をメールリストで流し、状況の共有を行っています。

### ●責任を持って仕事をこなす

村山さんは、ドットジェイピーに参加したこと

## 団体紹介

### 特定非営利活動法人 ドットジェイピー

若者に政治を身近に感じてもらうことを目的として活動しており、「議員インターンシップ事業」やホームページを通して議員情報の提供を行っている。現在までにインターンシップを経験した学生は累計7,545名、受け入れ議員は累計3,082名となっている。

#### <団体連絡・問合せ先>

〒106-0032

東京都港区六本木7-21-7 ウェスタ六本木2F

Tel 0120-098-214

Fax 03-3475-0870

E-mail info@dot-jp.or.jp



で得られた経験を次のように語ってくれました。「学生ではあるのですが、社会人としての自覚が持てるところが良かったです。ある意味会社みたいな組織なので、厳しさがあるというところが、普段学生ではなかなか経験できないところです。それと、もう1つは参加した学生からインターンに行って良かったと言われるところですね」

インターン参加後には、学生の政治に対する意識は確実に変化しているようです。2008年4月～9月期の調べでは、「政治に対するイメージ」が良いは18%から84%へ、「議員に対するイメージ」が良いは26%から95%へ、「選挙に必ず行く」は45%から81%へ、いずれも上昇しています。

#### ●見えてきた活動の課題

定着率が良いというのは、逆に言えば新人加入率があまり良くないということ。そして、受け入れ議員の数も伸び悩みの状態。この2点が、ドットジェイピー東北支部の目下の課題のようです。

「議員や学生にインターンシップをやっていますという告知までは聞いてもらえるのですが、いざ受け入れや参加の段になると躊躇されてしまいます。最近はやっと山形や福島にも広がりつつありますが、関西などと比べて受け入れ人数、参加人数が少ないのは、東北の気質なのかなと思ってしまいうくらい違います」と村山さん。

#### ●サポートセンターの利用状況

印刷室でチラシの作成や交流サロンでの打合せなど、サポセンをフル活用しているドットジェイピー。学生運営ということで特に交流サロンは重宝しているようです。「普段は学校もあるので22

時まで開館しているサポセンはありがたいです。また、フリースペースを使わせて頂いているので、資金面でも助かっています。立地もよく集まりやすいですね」と話してくれました。

#### ●活動拡大を目指して

インターン参加学生数も期を追うごとに増え、参加学生の政治に対する意識も好意的、積極的にと変化しています。

活動拡大を目指して、東北支部としての今後の目標は2つ。1つ目は、活動の認知度がまだまだ低いところがあるのでもっと多くの人に知ってもらうこと。2つ目は、学生がより充実した活動ができるようプログラムを改善することです。

これからも、ドットジェイピーの目標とする、ジャパンプロデューサーが一人でも増えるように、インターンシップの受け入れ議員の数を増やすこと、それに参加する学生を増やすことで活動をより拡げていきたいと考えているようです。



#### 取材を終えて

ドットジェイピーの活動は、インターンシップ参加学生の自己実現を助け、運営スタッフの成長にもなっています。全国規模の活動を現場の学生スタッフに任せ、目標設定を自分たちで行うという点に、学生スタッフがやる気を出し、成果を出した学生スタッフがまたやる気を生むという好循環が生まれるのだと思いました。そして、ジャパンプロデューサーとなるべく育っていくのではないかと感じました。

(担当：大石 俊輔)

# アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

## 「すぽっとらいと」登場団体に学ぶ！ 市民活動をはじめめるポイントは？

「団体を立ち上げるにはどうしたらよいの」「活動をはじめたばかりです。どうしたらうまくいくのかしら」…そのヒントは、これまで、ぱれっと『すぽっとらいと』（P2～3掲載）に登場していただいた団体の事例の中に隠されているかもしれません。それは何か？いっしょに探ってみましょう。

はじめの一步は、  
身の回りの問題に気づくこと

私たちの身の周りには気になる数々の問題があります。今問題となっていることは何なのかを知ることです。そして、その問題に対してどのように感じてどうしたいと思ったのか。わたし発の思いをしっかりと持つことが重要になります。

「新宿のホームレスを救う前に、仙台のホームレスを救わないといけないと、仙台で夜回り活動をはじめた」  
(ワンファミリー仙台)

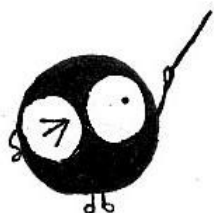
「発達障害への社会的認識が不十分だと感じ、ネットワークをつくり情報交換会と調査活動をはじめた」  
(発達支援ひろがりネット)

「高校中退者や不登校生徒の受け入れ先が少ないことにその必要性を強く感じ、行き場をなくして悩んでいる子どもたちの相談窓口になった」  
(ミヤギユースセンター)

「学校の部活だけでは子どもたちのスポーツ環境として足りないことが多い、部活動を側面から支えながら活動できる環境が欲しいと思った」  
(bukatsu.com)

「障がい者は、社会に向けて活動を発表する場が極端に少ないのが現状なので、そのサポートをしたいと思った」  
(オハイエ・プロダクツ)

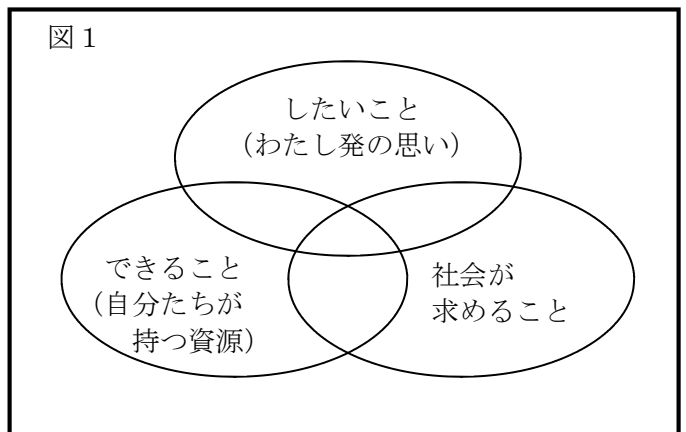
このように、それぞれ“気づき”があります。次にその問題がなぜ起こっているのか？社会の中で何が不足しているのか？など、原因や背景を学ぶことが大切になります。そして問題解決のための方策をしっかりと考えることです。



やりたいことをやっても問題は解決  
できない！思いを整理しよう

NPOとは「一人の困った」から「みんなの困った」を解決する仕組みです。自分のやりたいことだけやったのでは「みんなの困った」を解決する公共性のある活動にはなりません。下の図のように、「したいこと（わたし発の思い）」「できること（自分たちが持つ資源）」「社会が求めること」を考えてみると良いでしょう。その重なった部分こそが活動のポイントとなります。

図1



まわりに声をかけてグループをつくる  
共感してくれる仲間を集める

わたし発の思いに対して相手から共感を得られるかどうかは、NPOを立ち上げるときだけでなく、その後の活動を継続していくためにも非常に大切なポイントになります。問題の解決に取り組んでいくためには、一緒に参加してくれる人はもちろん、支えてくれる人が不可欠だからです。支援者を得るためには、思いを相手にわかりやすく伝えることが大切です。

「観察会を行い感じる喜び・学ぶ楽しさを会員や参加者と共有している」

(サイカチネイチャークラブ)

「活動を通じて築いた人的ネットワークやまちづくりに携わる楽しさが活動の基礎になっている」

(都市デザインワークス)

「メッセージを発信することで、問題を可視化し、地域からの支援を呼びかけている」

(仙台ダルク・グループ)

「チラシを公共施設等に配架、報道関係へプレスリリース、過去の参加者や関心のある方へのご案内を講座のたびにやっている」(メディアデザイン)

## いよいよ行動開始

はじめは無理のないかたちではじめることです。無理せずステップを踏んでいくこと。さらに大切なのは、話し合いながら進めていくこと。メンバーが対等な関係の中で論議をしていくこと、さらにそれぞれのもつ知恵やネットワーク等、必要な資源は持ち寄って行うことが、市民活動には不可欠な要素となります。

## サポセンを十分に活用する

団体の活動が活発になると、活動拠点としてサポセン5階交流サロン等のフリースペースを使ったり、重要な会議等は貸室を借りて行う団体が多いようです。その他、ロッカー、レターケース、事務用ブース、印刷室などサポセンのサービスを上手に活用して活動の幅を広げましょう。人材確保や資金調達など、活動をしていくうちに出てくる問題点やお悩みごとは、スタッフに気軽にご相談ください。

「ロッカーやレターケースから活動に必要な情報を取り出している。平日夜10時まで開館しているし、交通の便もよいので助かる」

(宮城 I Y E O)

「チラシ等は、パソコンを使って原稿をつくり、隣の印刷室で印刷から折りまで行っている」

(日本脳トレーニング協会)

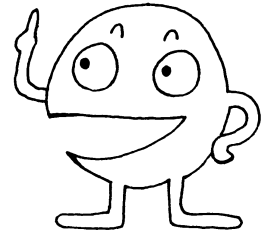
「立ち上げ当初からボランティア保険の掛け方で困ったことは何でも相談している」

(子育て支援グランマ)



## 大切なのは一步を踏み出す行動力!

活動をする上で一番大切なのは、楽しく活動をしていくということ。まずは行動ありきです。そして、活動がスタートしてからも思いを見直し深めながら活動を進めていきましょう。



団体運営のコツを見つけよう!!

### すぽっとらいと 掲載団体一覧

(2008・1月～12月号)

- 1月号 市民の情報発信を支援  
メディアデザイン
- 2月号 脳トレで認知症予防!  
(特活) 日本脳トレーニング協会
- 3月号 青少年の自立をサポート  
(特活) ミヤギユースセンター
- 4月号 音楽のチカラによる心のバリアフリーを!  
(特活) オハイエ・プロダクツ
- 5月号 スポーツする子どもたちを  
応援します!  
bukatsu.com
- 6月号 団体をつなぐネットワークと支援活動  
発達支援ひろがりネット
- 7月号 自然を守る  
(特活) サイカチネイチャークラブ
- 8月号 国際交流をもっと身近に  
宮城青年国際交流機構  
(宮城 I Y E O)
- 9月号 ごみ拾いでホームレスの自立支援  
(特活) ワンファミリー仙台
- 10月号 人と情報が交錯する拠点を  
まちにつくろう  
(特活) 都市デザインワークス
- 11月号 豊かな経験を生かして、  
若いママ・パパをサポート  
子育て支援グランマ
- 12月号 薬物依存症者の回復を手助けする  
(特活) 仙台ダルク・グループ

# サポセン日記

## ～ 「いろいろ学べた！ 中学生職場体験活動」～

サポセンでは仙台市で行っている事業、中学生の「自分づくり教育」の職場体験活動への受け入れをしました。

今年度は11月5日から7日まで仙台市立南吉成中学校3名、11月18日から20日まで富沢中学校3名の生徒さんが3日間、サポセンにて主に窓口業務を体験しました。

### ■ある日の職場体験風景

AM 9 : 0 0

いつもの通学路とは違う朝の風景をみながら早々とサポセンに着いてしまった中学生。初めての場所に少々緊張気味。どんなことをするのか、どんな人たちがいるのか、かなり不安気な様子。

AM 9 : 3 0

センター長からこの施設の設置目的の説明を受け、館内を案内されて、やっと雰囲気がかめてきたかな…

AM 1 0 : 0 0

1階の窓口で何をするのか、スタッフから説明を受ける。貸室の鍵の貸出、茶器の貸出、部屋の案内など、やることがたくさんあることに驚き！「うまく来館者と話せるかな…」「3人で順番を決めて、みんなで頑張ろう！」と相談しあいながら一生懸命対応していました。

PM 1 : 0 0

昼食を食べ、緊張も少し解けてきたところで午後の仕事。サポセンの仕事は窓口対応だけではなく、いろいろあります。

館内の見回りもしました。利用者が何人位いるのか、不審物などはないかなど館内の安全確認をしました。



PM 3 : 0 0

あっというまに終了時間。今日の仕事の振り返り。「明日は今日よりできることを増やそう…」「挨拶をしっかりと出来るようにしよう！」と、それぞれが感じたことを話しているうちに、朝の不安そうな表情はもうどこかにとんでいってしまったようでした。

今回はどんな生徒さんが来るのか、私たちスタッフも楽しみでした。

3日間2校の生徒6名が職場体験を通して、それぞれいろいろなことを学んだようです。中学生から受ける質問に私達スタッフもドキっとさせられることもあり、あらためて自分の仕事を考える機会になりました。

(担当：伊藤浩子)

### ■ 3日間の感想■

#### ○南吉成中学校のみなさん

- ・始めは大変そうだった仕事も3日目になると楽しくなり、やりがいのある仕事だった。
- ・あいさつの大切さや笑顔でいることなど、学校生活に活かしていきたいと思う。
- ・NPOという団体のことがわかったり、あいさつをすることが大切だということがわかった。日々の生活が変わった。

#### ○富沢中学校のみなさん

- ・市民の人々に情報を伝える大変さ、お客様と接するおもしろさと大変さを肌で感じる事ができた。
- ・あいさつの大切さや接客の大切さを学ぶことができた。
- ・ポットを持つのを手伝ったときにお礼を言われてうれしかった。サポセンのスタッフがこの仕事を続けていく理由が一つわかった気がした。

# イベント紹介

## 2月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
2月5日(木) 18:30~21:00 (全6回)	手軽に出来るフットケアを学んでボランティア活動に活用してみませんか。自己付加価値をつけてみよう。	研修室3	受講料2万 認定申請料1万 教材費7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場 Tel&Fax:022-223-9023 携帯:090-7564-9831 (森)
2月7日(土) 14:00~17:00	生きづらさを抱えた子どもたちの「非行」と、どう親は向き合えばいいのか。一緒に分ち合いませんか!	研修室2	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 携帯:080-1838-7464 (星野はるか)
2月11日(水) 13:30~15:30	自分でできる!こころのセルフケア バッチフラワーセラピーミニ講座 (体験ボトルを作ります)	研修室2	資料、 ボトル代込み 2,000円 (事前申込必要)	バッチネットワーク東北 Tel&Fax:022-378-0832 (村上)
2月14日(土) 13:30~16:30	'09年食の寺子屋~食はいのち~ 「畑から考える食卓 食卓で考える畑~ 食と農を結ぶ試み5年~」	セミナー ホール	無料 (事前申込不要)	NPOせんだい食農交流ネット Tel&Fax:022-214-3203 (大木)
2月15日(日) ~ 3月15日(日)	2008年度事業計画の実行した行事の 写真展覧会 皆様にお越し頂き当NPO にアドバイスを。	展示ス ペース	無料 (事前申込不要)	NPO法人杜の都仙台ナショナルトラスト Fax:022-252-7610 携帯:090-4315-9208 (大内)
2月17日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「考える力を育てる」 ~子どもを伸ばす接し方~	研修室5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/ index.html (石田えみ子)
2月18日(水) 19:00~21:00	ワードによるチラシづくりの テクニックあれこれ	研修室2	1,500円 (事前申込必要)	メディアデザイン Fax:022-224-5308 携帯:090-3049-0613 (千葉)
2月22日(日) 10:30~12:30	「布ナプキンってどんなもの?」 さわってみよう! 作ってみよう! 聞いて みよう!	研修室3	500円(会員・高 校生以下無料) (事前申込必要)	布ナプ普及協会 Fax:022-248-2864 E-mail:napu2@mail.goo.ne.jp (中村真実子)
2月22日(日) 12:55~16:00	行政書士会記念日イベント 第一部行政書士セミナー/第二部 笑って学ぶ相続劇「三丁目の伊達家」	市民活動 シアター	無料 (事前申込不要)	宮城県行政書士会 Tel:022-261-6768 Fax:022-261-0610 (長門正美)
3月1日(日) 10:00~12:00	身近な人気者をお願いしてローカル ブームをつくり、みんなの意識を変え ちゃう啓発手法の紹介	研修室5	500円 (事前申込必要)	東北HIVコミュニケーションズ 携帯:070-5624-3410 Fax:022-268-4042[No.69] (太田)

**仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ** < 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983  
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

シニア専門相談 <無料/予約制/1組1時間程度>	シニア総合相談 <無料/先着5人/予約制>	シニア一般相談 <無料/予約は不要>
<p>■2月14日(土) 10:00~18:00 仙台の伝統や文化、歴史を紐といてみませんか?仙台の伝統文化の伝承や、歴史散策で活躍されている団体の活動を紹介します。</p>	<p>■2月26日(木) 13:00~20:00 定年退職後の3大キーワード、「経済面」「健康」「生きがい」について不安や疑問を、一緒に解決しませんか?</p>	<p>○平日・土曜日 10:00~20:00 ○日曜日・祝日 10:00~18:00 ◆休館日 毎週水曜日・12/29~1/3</p>

# お知らせ ●○○●

## サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

### 仙台リーディング・シアター・ウィーク この街には人の気持ちを伝える声がある

生の声は人の心の琴線に直接触れ、時には喜びを与え、時には悲しみの涙を誘います。リーディングとはその生の声をもって表現する芸術です。この企画では、今仙台で行われているリーディングのパリエーションを一同に集めることで、リーディングという表現の可能性を探ります。

<主催> 演劇集団Lada Trosso

1996年旗揚げ。詩のような舞台を目指し、セリフを減らし、身体表現を多用した舞台を作っている。代表作「シームレス 国境を越えて」(平成18年度せんだい芸術祭大賞、平成18年度宮城県芸術選奨新人賞(安藤)、「The bag」他。

#### ●公演スケジュール

日時	13:00	19:00
2月27日	—	○
28日	—	○
3月1日	○	—

○開場 各30分前  
○受付・当日券販売 各30分前

※全公演終演後  
アフタートークあり

#### ●料金

○一般 前売2,000円  
当日2,500円  
○学生 前売1,500円  
当日2,000円

#### ●申込・問合せ

○演劇集団Lada Trosso  
携帯:090-2958-8054(安藤)  
E-mail:ladatorosso@mac.com  
Web:http://ladatorosso.de-blog.jp/

#### ●チケット取扱

○プレイガイド せんだい演劇工房10-BOX

## 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

## サポートセンターのサービスあれこれ

- 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時  
日曜・祝日 / 午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ(施設点検等のため)  
**1/28 2/25**

- 貸室 (研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料) 打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)
- 交流サロン 少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料) チラシ・ポスターの掲示、展示スペース インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン 市民活動団体に関するさまざまな情報があります。市民活動相談の受付や図書閲覧、貸出も行っていきます。市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室 印刷機(紙持ち込み) / 1製版100円、紙折り機(無料) / コピー機(1枚10円)

## ■ 問い合わせ先 ■

発行: 仙台市市民活動サポートセンター  
(指定管理者: 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042  
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>  
発行日: 2009年1月23日  
編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター  
編集人: 小松州子 葛西淳子 内川奈津子

★古紙再生紙を使用しています。  
★大豆油インキを使用しています。



## ■ 案内図 ■



- 来館の際は、公共交通機関をご利用ください。  
[最寄のバス停] 電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
- [地下鉄] 広瀬通駅西5番出口すぐ
- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。  
お車や自転車でお越しの方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。  
注) 路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。  
指定管理期間: 2007年4月1日～2010年3月31日

## 編集後記

- ◆ サポセン自主事業の広報チラシはスタッフの手作りということも多い。「伝わる広報」を心がけ、キャッチやデザインに頭を悩ますことも…。ご来館の際は、サポセンからのお知らせにもご注目くださいネ。(小松)
- ◆ コンクリートむき出しのサポセンは、とても乾燥します。事務局内では加湿機2台がフル稼働中。おかげで、今年は風邪しらずです。(内川)
- ◆ ゆきやこんこ〜♪冬の季節真っ只中。犬は外へ飛び出し、猫はコタツで…と言いますが、我家の犬はストーブの前が大好きです? あなたはどっち?(葛西)